

European Association of Nuclear Medicine 2017 参加報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 小川 浩輝

2017年10月21日(土)～10月25日(水)の期間、私たちはウィーンで行われた EANM2017に参加しました。滞在期間は3日間で飛行機での移動に1日かかりました。参加理由としては総合研究で行った内容を電子ポスターという形式で発表すること、国際学会という大きな舞台を経験するためです。



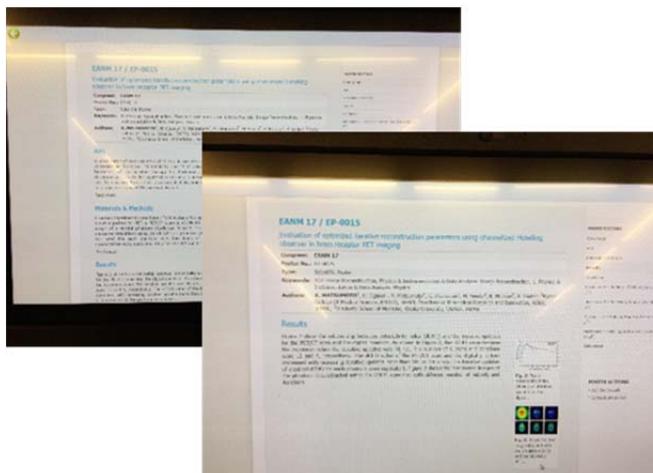
まず、ウィーンに着いて感じたことは、建物も街行く人々も全てが大きいということです。また、公用語がドイツ語であるため、電車の切符を買うのにも苦労しました。

学会内では様々なセッションやシンポジウムを見ることができましたが、発表内容の多くは前立腺癌の内容療法に関するものでした。私たちもいくつかのセッションに参加したのですがヨーロッパなまりの英語は聞き取りづらく、分からない単語もあり、理解に苦しむ場面も多々ありました。

夕食は遠藤学長や群馬大学の先生方、帝京大学の高木先生、佐賀病院の富松先生とウィーンの名物料理であるウィナー

シュニッツェル(Wiener Schnitzel)やグラーシュ(Gulasch)などを食べました。

先生方の貴重なお話もたくさん聞くことができ、モチベーションアップにも繋がりました。

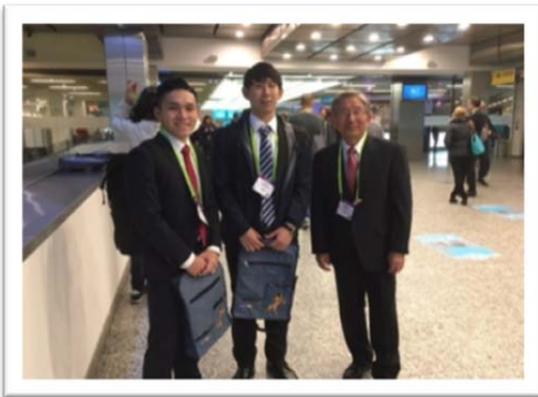


今回の国際学会を通して、勉学はもちろんのこと、海外の文化や、他大学の先生方との交流など多くのことを経験することができました。最後になりますが、国際学会に参加する機会を与えてくださいました遠藤

学長をはじめ、国際交流委員会の先生方、電子ポスターを作成するにあたりご指導いただきました諸先生方に深謝いたします。

European Association of Nuclear Medicine 2017 参加報告書

医療科学部 放射線技術学科 4 回生 松本 誉士樹

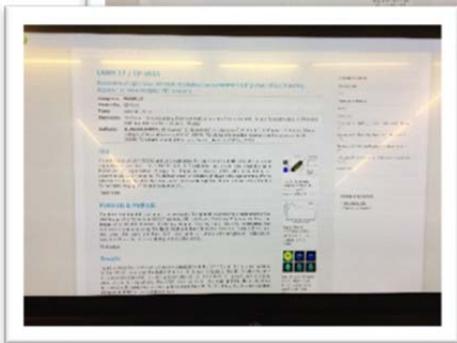


2017年10月21日(土)から25日(水)(滞在期間3日)までオーストリアに行ってきました。目的は、国際学会で総合研究の内容を電子ポスターで発表することでした。

22日(日)に学会会場へ行き、私たちの研究の内容が電子ポスターで公開されているのを確認しました。学会会場に隣接された建物内では、機器展示が行われていました。シーメンスのブースでは、半導体光センサーを用いた最新のデジタルPET装置が展示されており最先端の装置を見ることができました。



23日(月)は、学会プログラムの合間を使ってウィーンを観光しました。下の写真はシュテファン大聖堂の写真です。リフトで大聖堂の上に行くことができるようになっており、そこから眺めるウィーンの街はとても綺麗で感動しました。他にもシェーンブルン宮殿やベルヴェデーレ宮殿といった歴史的建造物を間近で見ることができました。建造物の迫力と細やかな造り、建造物内の様々な箇所に描かれた美しい絵画に終始圧倒されるばかりでした。



今回の国際学会参加により、普段味わうことのできない貴重な体験ができとても満足しています。末筆になりますが、国際学会に参加する初めての機会を与えて下さいました遠藤学長をはじめ、国際交流委員会の先生方、電子ポスターを作成するにあたりご指導いただきました諸先生方に深謝いたします。

